

第1回バス利用促進座談会-バス利用増加へ向けた取り組み-

〔1〕企画概要

会 場：沖縄県庁 11 階 第 1, 2 会議室

日 時：平成 29 年 9 月 19 日（火）14:00～17:00（3 時間）

共 催：沖縄県（企画部交通政策課）/わった～バス党

運 営：株式会社アカネクリエーション、株式会社エマエンタープライズ、株式会社がちゅん

参加者：沖縄都市モノレール（株）、沖縄バス（株）、那覇バス（株）、（株）琉球バス交通、東陽バス（株）、沖縄県バス協会、沖縄 IC カード（株）、高等学校 PTA 連合会、那覇商工会議所青年部（YEG）、沖縄県交通政策課 **合計 24 名**

進行役：メイン進行 1 名、各テーブルに進行補助 1 名

目 的：取り組み案を実現するためにより具体的な話し合いを行う。

〔2〕タイムスケジュール

時間	タイトル	内容
13:30	開場	
14:00	はじめに	趣旨説明、挨拶（わった～バス党幹部）
14:15	導入のためのアイスブレイキング	お題を元にバスのあり方を考えるワーク
14:45	ヒアリングで提示されたアイデアや提案を具体化する	これまでの座談会で提示されたアイデアを「対象、方法、効果、場面」の 4 つの視点から整理する
15:35	休憩	10 分間の休憩
15:45	アイデアをより実現可能な形に落としていく	複数提示されたアイデアを「実現までに掛かる時間」「コストや人手」の二つの視点から比較し、アイデアの実現可能性を検討する
16:20	実現可能性の高いアイデアを選び、実施方法を話し合う	比較されたアイデアの中から実現可能性の高いものを選ぶ。その後、実現のための必要な資源（物、人手、場所など）を洗い出す
17:00	今後のスケジュールの連絡	第二回 10 月下旬以降、第三回 12 月中旬～下旬

〔3〕プログラム内容

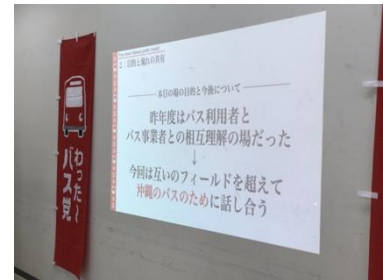
<はじめに>

目的：ファシリテーターからこの座談会の開催目的と本プログラムの流れを説明する。また、バス党幹部からの挨拶を行い、参加者のバス利用促進への意気込みを高める。

内容：昨年度（H28）に開催された全三回の座談会の内容とその結果を共有し、本年度（H29）は全三回の座談会を通して、バス利用促進に向けての取り組みを実施し、その振り返りを行うことが目標であると伝えた。その目標の達成に向けて第一回の座談会では、取り組み案を実施するためにより具体的な話し合いを行うことが目的であると伝えた。また、わった～バス党幹部から本座談会への想いを共有した。

結果：前年度座談会に参加しておらず、本年度から参加の方々に対してこれまでの経緯や、本プログラムを開始するにあたっての前提情報を共有することができ、本プログラムが全三回の座談会の一つであり、実施を目的とした話し合いであることを共有した。それにより参加者はアイデアの実現可能性を意識し、各グループで話し合う内容(A:生徒と協働での企画 B:イベントとのタイアップ等 C:他機関への企画提案)を共有することにより各テーブルで話し合う内容を確認することができた。また、わった〜バス党幹部の挨拶により、会場の雰囲気が和みバス利用促進に向けての参加者の意気込みが高まった。

[これまでの座談会の流れの説明とわった〜バス党幹部の挨拶]



＜導入のためのアイスブレイキング＞

目的：アイデアを出すための柔軟な頭作り、アイデア出しの練習を行う。

内容：①今から 20 年後のバスに追加された新しい機能とは？

②名護から那覇まで 1 万円の路線バスについている驚くべきサービスとは？

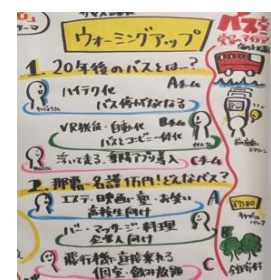
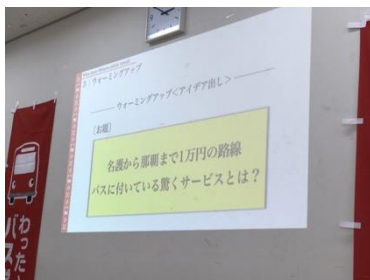
上記二つのお題に対して自由にアイデアを出してもらった。

結果：①では、バス停がなくなりどこでも停車できる、バス停にコンビニがある、自動運転、浮いて走るバス、などの現在のバス利用の課題が解決できるアイデアが多く見られた。

②では、エステ、映画、塾、お笑いがついているバスや、バー、マッサージ、料理が提供されるバス、チェックインをバスで行い飛行機に直接乗れるバス、個室や飲み放題付きのバスなどの各グループのニーズを反映したアイデアが見られた。

このアイスブレイクにより、参加者同士の会話が増え、意見を言いやすい雰囲気が醸成された。また、提示されたアイデアの中には、実際に実施可能なアイデアもあり、次のアイデアの具体化を行うための頭の準備と下地作りができた。

[発表された新しいバスのあり方]



<ヒアリングで提示されたアイデアや提案を具体化する>

目的：ヒアリングで提示されたアイデアを実現するために具体化する。

内容：事前のヒアリングで提示された各アイデアの「対象、方法、効果、場面(場所)」を洗い出す。

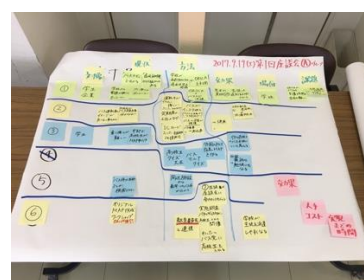
【高等学校 PTA 連合会(A グループ)】事前のヒアリングでは、遅延証明書の発行、SNS を活用し高校生へバス利用を促す PR を行う、生徒同士でバス利用について話し合う場を設ける、「We love Bus」のステッカーを作り流行らせるなどが挙げられた。

【通勤利用者(B グループ)】ヒアリングでは、営業業務でのバス利用、イベントとのタイアップ、バス停の維持管理を近隣コミュニティで行うなどが挙げられた。

【企画検討会議(C グループ)】バスのお得情報のチラシ配布をコミュニティ内で行う、路線図 MAP や時刻表を高齢者に配るなどが挙げられた。このグループの結論を、次回わたつた〜バス党法入党員であり、高齢者等が集まる施設を有するオリーブ山病院に提案するという位置付けで話し合うことにした。

結果：アイデアを具体化することで実施におけるイメージ作りを行うことができた。また、四つの視点から整理することで、各アイデアの実現可能性やバス利用促進への影響を検討し、実施すべきアイデアを精査できた。実施における懸念事項や、実行機関、協力機関を話し合うことができたが、次回開催までに、関係機関と実施内容の具体化について調整を行う必要がある。

[各アイデアを「対象、方法、効果、場面(場所)」で具体化を行った]



<休憩>

10 分間の休憩を挟み、話し合いの煮詰まりを改善した。その時間で他のグループのアイデアを見てもらった。休憩中もアイデアの具体化について話しあっている参加者もいた。

<アイデアをより実現可能な形に落としていく>

目的：具体化された複数のアイデアの実現可能性を比較し、改善点を洗い出す。

内容：アイデアを「実現までにかかる時間」「コストや人手」の二つの視点から比較する。その際に可能であればアイデアの改善を行う。

結果：グループごとに進捗状況の違いはあったが、アイデアの実現に向けてより具体的な内容を話し合い、アイデアを実現する上での課題や解決策を検討できた。

[実現までにかかる時間、コストの2軸でアイデアの実現可能性を検討した]



<実現可能性の高いアイデアを選び実施方法を話し合う>

目的：各グループで複数のアイデアの中から本座談会を通して実現が可能なアイデアを絞り、実際にどのように取り組む必要があるかを明確にする。

内容：比較されたアイデアの中から実現可能性の高いアイデアを選び、実現するために必要な資源(物、人手、場所など)を洗い出す。最後に各グループの具体案を発表した。

結果：幾つかのアイデアの中から一つにアイデアに絞り、実施する方法を話し合った。

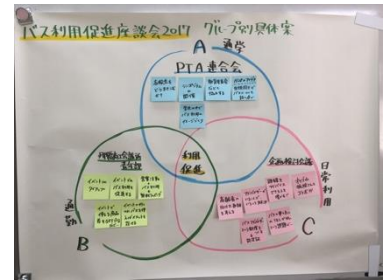
【A グループ】 高校生のバス利用シンポジウムの開催。

【B グループ】 バス利用とイベントとのタイアップ。

【C グループ】 バス利用に関する認定資格を作り、バスの案内ができる人を高齢者向けのサービス提供者の中で増やす。

具体的なアイデアとして上記内容でまとめられた。それをグループのファシリテーターが経緯を全体に共有し、本会議での話し合いは締めくくられた。

[発表の様子と最終アイデア]



<今後のスケジュールの連絡>

目的：今後のスケジュールを共有し、次回参加を促す。

内容：第二回を10月下旬以降、第三回を12月中旬～下旬に予定していることを共有した。第二回では計画の実施に向けて最終会議を行うこと、第二回と第三回までに計画の実施を行い、第三回までに実施した取り組みを振り返り、今後の展開を話し合う予定であることが共有された。

結果：本座談会と今後の座談会のつながり、実施を目的とした座談会であることを再度意識し、次回の座談会の内容を共有することで、次の参加までにバス利用促進の方法を考えてもらうための意識付けができた。

本座談会は、本年度の全三回の座談会の第一回目として開催された。本座談会においては、これまでの座談会を振り返ることができ、その上でアイデアの実施を目的とした座談会を行っていくことを参加者に共有することができた。また前年度の座談会に比べ、参加者同士のコミュニケーションが増え、バス利用促進に向けて建設的な話し合いにつながった。依然として、バス会社のみが問題を抱えているというような意見もあったが、それぞれの参加者が協力してバス利用促進をするにはどうしたらいいかという話し合いを行うことができた。昨年度の座談会でバス利用促進に向けての意識が高まり、関係性が構築されたことが理由ではないかと考える。

実施内容の具体化について調整を行う必要はあるが、本座談会では具体的な話し合いを行うことができたため、第二回の座談会で、計画の実施に向けた最終会議を行うことは十分可能であると言える。以上が本会議の成果である。

バス利用促進座談会 2017

平成29年、9月、19日 ④県庁11階第1会議室

富銘大樹
株式会社
Tobacco
F&B

「具体案を実際に実施するための企画会議を行う」

14:00 はじめに

14:15 ウォーミングアップ

14:45 アイデア出し

15:35 休憩

16:45 アイデア実現化

16:20 実現のためには...

16:45 今後のスケジュール確認のため

今年度の取組 → 来年度の取組

平成28年12月 関係性などの課題抽出

平成29年2月 課題の洗い出し

平成29年3月 方向性の決め

平成29年9月 具体的な企画会議・実施の最終会議

平成29年10月 実施の最終会議

平成29年12月 実施振返り＆展望

相互理解 の場

バス利用者 ↔ バス事業者

沖繩のバス のため の場

ウォーミングアップ

1. 20年後のバスとは？

- Aチーム：ハイテク化、バス停がなくなる
- Bチーム：VR機能・自動化、バスとスマホ一体化
- Cチーム：空いている、多目的な導入

2. 那覇・名護市内！どんなバス？

- A：エッセイ・映画・音楽・お笑い、高校生向け
- B：バー・マシナリ料理、全年代向け
- C：飛行機・直接乗れる、個室・飲み放題

[グループ別具体案]

Aグループ：高等学校 PTA 連合会

◎高校生とともにシンポジウムを開催する。

→高校生を巻き込むことが重要。

→教育委員会などに協力依頼を行い、具体的な動きを出す。

→生徒同士でのバスに関する話し合いを行う。

→高校生の中でバス利用のイメージを作ることで、バス利用を促進する。

Bグループ：那覇商工会議所青年部

◎イベントとタイアップしてバス利用を促進する。

→イベントでの駐車場問題をバスとのタイアップで解決する。

→イベントで使える商品券などをバス利用することで配布。(バスの切符と引き換え等)

Cグループ：企画検討会議

◎バス利用を促進するためのバスアドバイザー制度を設立する。

→目的地までの路線案内や乗り継ぎ案内をできるアドバイザーを育成する。

→アドバイザーが病院（オリブ山病院）などにいることでバス利用者を増やす。

→現在のバス協会への問い合わせを減らすことも目的とする。

